

令和5年度

教員のためのチーム「学校・家庭・地域」連携講座

令和5年11月16日(木)10:00~15:30

会場:青森県総合社会教育センター第1研修室 受講者:49名

1 趣旨

学習指導要領における「社会に開かれた教育課程」について理解を深め、その実現に向けて学校・家庭・地域が『チーム』として連携することを目的として、“未来の学校づくり・人づくり”に取り組む目的と重要性を共有し、具現化するための実践的な研修を行う事業である。

2 内容

【講義】地域とともにある学校づくり

～コミュニティ・スクールと地域の未来～

講師 文部科学省総合教育政策局CSマイスター

一般社団法人まなびのみなと 代表理事

高校と地域の協働・共創 研究所 代表 取釜 宏行 氏



【事例報告】「地域とともにある学校づくり」に向けた県内事例の紹介

県立黒石高等学校及び県立森田養護学校における学校運営協議会の取り組みについて

ナビゲーター 文部科学省総合教育政策局CSマイスター

一般社団法人まなびのみなと 代表理事

高校と地域の協働・共創 研究所 代表 取釜 宏行 氏

3 講義要旨

- 学校運営協議会は、地域学校協働活動を推進していくためのツールである。ツールである以上は、ツールとしての役割や使い方を正しく理解していなければ有効に使うことはできない。その前提となることは協議会の委員が、育てたい児童・生徒像や身に付けたい資質・能力について十分協議を深め、認識を共有しておくことである。
- 地域との協働は、「学校（児童・生徒）の実態」と「地域の実態」によって多様である。現場における対話の積み重ねによってのみ答えに近づける。そのために、社会の変化・学校の変化・地方創生の潮流を確認し、現場と紐付けながら、これから求められる「学校と地域の協働」についてイメージする必要がある。

4 アンケートより

- 各学校において育てたい生徒像、身に付けたい資質が明確になった上で、それを支援するためのツールがコミュニティ・スクールであるということがしっかり理解できた。
- 午前の講義では、ワークをたくさん取り入れてくれたので、自分事として学校運営協議会について考えることができた。研修終了とともに終わりではなく、ワークシートに挙げられた項目をもっと考えて、次年度実際に取り組むにはどうするか、というところまで考えてみたい。
- 午後の事例発表、どちらもすばらしい取り組み、実行力でとても参考になった。「これはうちでもできるかも」、「こういう視点を持たないと」ということに気づかされた。ただ、真似するのではなく学校課題や、育てたい生徒像がブレないようにしたい。

全国的にコミュニティ・スクールの導入率は高まっていますが、CSマイスターである取釜講師によると、コミュニティ・スクールに関する本質的な理解が不十分なまま学校運営協議会が開催されている事例があるそうです。取釜講師は「コミュニティ・スクールは、関係者が目的と目標を共有し、当事者意識を持って関わることで実効性が発揮できる。」と強調されています。この大原則を改めて確認することができた研修機会となりました。